

俳諧古式傳

特 別
^5
6590
103



○花鳥の思ふて世をかり

○もよおはさるやうな世

俳諧古式傳

芭蕉菴枕書

○今更らざる者——銀屏の涼——



○廿のまを春あり知しらるゴミ換キナ禪チをいふ

換と云ふは風をさかすまをいふなりカ此のまを欲

目えし——卷の重なりカ勝ると催ひカ卯のまを

し——海をもの卯のまをカのまをいふなり

法ありと云ふ——はらうまをいふなり

鏡

稔

一 諸港信止

貴人高人多くは諸港信止
諸港信止といふ事なり

一 一句一直

一句一句と書きたる事多し

一 出合をり也

出合をりといふ事なり
三つ方なり

一 雪月並み石

雪月並み石といふ事なり

一 小語俯声

右に古式をり

五秘の傳

今日寢

五尺の巻

人の息

安付

蓮の茎

夜の柱

乞食代衣

和角

七姫傳

佐保姫

一名青姫

白玉姫

山姫

春の色は月より亦世に
其許青柳青きよきよとて
深秘に

雨風をうけて云々

雨云とてうらみ云々

龍田姫

朝顔姫

薰姫 カホリメキモノ

笠解虫姫

秋の色は月より神に
白雲は許しも

世々此細秋の花の如く
高年花と云はれり

世々此をうけて云々
やまをとりまよと名を

世々此をうけて云々
是は世の星一夜の月
下りて身をまはせ
成るるは不ふつてい名有

右七姫春二名

秋四名

山姫 以上七姫深祓也

一 ア イ ウ エ オ

二 カ キ ク ケ コ

三 タ チ ツ テ ト

四 ハ ヒ フ ヘ ホ

五 ヤ 井 ヱ エ ヨ

九 ラ リ ル シ ロ

三 サ シ ス セ ソ

五 ナ ニ ヌ 子 ノ

七 下 ミ ム メ モ

十 ワ イ ウ エ オ

連致親白
元日や晴れて
住乃物は

立通親白

何し麻嶋乃海は世無小船

正親白

初平や田何細初細後を

右、本初親定等の賢むるふむの抄多し
於進の親よまき通しと云ふ終り終り

連致音通ハ此考のんやよら

枯枝り鳥のとゆらう秋のメ

細く平行音のそと

